

奈良公園植栽計画の概要

計画の目的

適切な植栽整備・管理
 奈良公園は、若草山をはじめとする芝地、樹林地、森林、水辺を有し、多くの生物の生息環境を有する**自然的特質**、平城遷都以来の歴史・文化資源を擁し、悠久の歴史の蓄積を感じさせる**歴史的・文化的特質**、さらに**公園的特質**が融合して、**他に類を見ない景観的特質**を有することから名勝に指定されている。
 このことから、奈良公園の景観の根幹となる植栽のあり方や適切な植栽整備に関しては、慎重、かつ十分な検討を行い実施する必要があることから、造園・景観・文化財庭園等の第一人者の専門家等からなる「**奈良公園植栽計画検討委員会**」を設置し、意見を伺いながら公園全体から各地域について順次植栽計画を策定し、整備を実施している。

基本方針

奈良公園の植栽の特徴

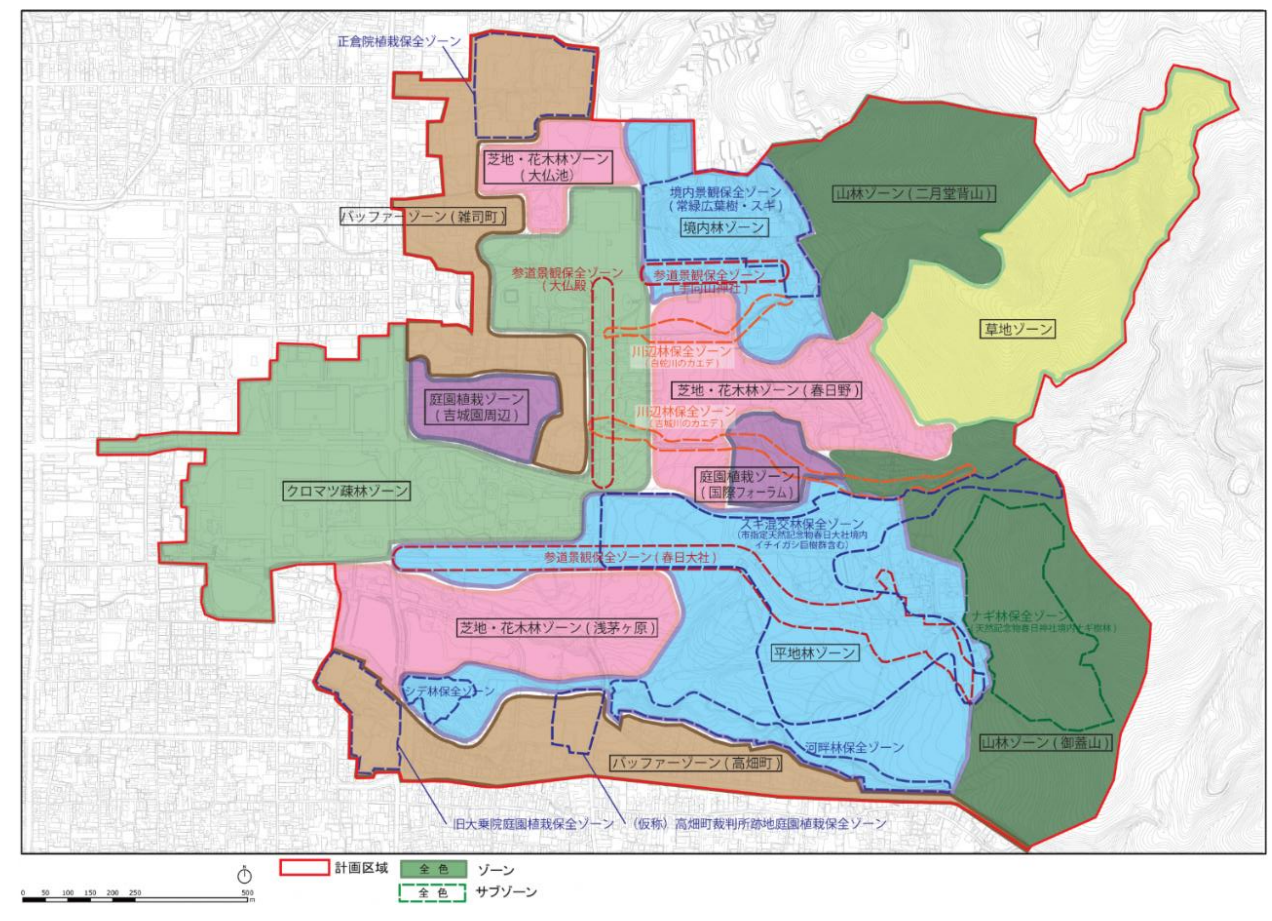
- 時間の積み重ねが作り出した植栽景観
- 多くの文化財と一体となった植栽
- 人と鹿によって作り出された植栽

植栽計画の基本方針

- 植物の適切な育成・管理・更新により、**植物本来の魅力を引き出す**
- 奈良公園の**歴史、文化、自然、景観を守る**ため、重要な樹木や樹林を保全する
- 奈良を代表する**眺望景観を保全**するため、適切に植物管理を行う
- 奈良公園の**資源や特徴を活かし、魅力を引き出す**植栽とする

ゾーニング

計画区域内を植栽の目的や目標像、植物管理の考え方を踏まえて区分。



計画策定

計画策定の順序 ■奈良公園植栽計画検討委員会 検討委員

- 植栽に関する大きな課題のあるゾーン = マツ枯れ、サクラの衰退、ナンキンハゼ(外来種)の侵食など
- 事業効果の大きいゾーン = 観光客の主要動線・滞在箇所
- 関連する整備事業があるゾーンは別途対応 = 瑜伽山園地、吉城園周辺など

尼崎 博正(京都芸術大学 教授)
 井原 縁(奈良県立大学 教授)
 増田 昇(大阪府立大学 名誉教授)

木南 正美(日本樹木医会奈良県支部 樹木医)
 田代 佳子(名勝依水園・寧楽美術館 館長)

各ゾーンの整備の進捗状況

計画区域	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	方針
猿沢池周辺	■	■	■												クロマツ疎林を基調として歴史・文化と調和した格調高い植栽・景観を保全・継承する
登大路園地	■	■	■	■											参道景観や眺望景観の保全と芝地や花木類の活用を基本に空間の連続性と調和に配慮して魅力ある植栽・景観を作る
春日野園地		■	■	■											庭園空間として多彩な植栽や眺望を活かした質の高い風景を作る
浮雲園地		■	■	■											旧境内地と園地の特徴を活かした植栽・景観を保全・継承する
国際フォーラム庭園			■	■	■										若草山に向かう動線の魅力を活かした植栽・景観を保全・継承する
浅茅ヶ原・荒池園地					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	ナンキンハゼ対策を実施する
茶山園地							■	■	■	■	■	■	■	■	
若草山															

